
Parasitic on Love.

Koto

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Parasitic on Love .

【Nコード】

N7620Z

【作者名】

Koto

【あらすじ】

突然お見合いした相手は、一回り以上上の見た目極悪な社長さんでした。

- 私、まだ高校生なんですけど?!
- 知ってるかい、お嬢ちゃん。
- 16から結婚できるんだぜ?

そんなこと知ったことじゃありませんようっ！！

執着心丸出しのお色気むんむんな社長さんと、そんな親父に好かれ
たかわいそうな女の子のお話。

それは突然のことでした。

御年90をすぎたばかりのお祖母様がほうじ茶を啜りながら、なんてことのないように私に言い放ったのです。

「あの、お祖母様？」

もう一度おっしゃってください。

そう言うように首を傾げて見つめれば、またお祖母様はなんてことのないようにもう一度同じ台詞を吐いた。

「お前と婚約したいとおっしゃる馬鹿がいて、駄々捏ねるから見合
いの席をもうけたよ」

神様。

・・・ああうちは仏教だから仏様に頼る方がいいのかしら。

って、違う違う。

「お祖母様！私イヤです！！」

「イヤと言われてもねえ。直接言ってやりなさい」

お祖母様は面倒臭そうにため息をついてまたお茶を啜った。
いったいなんなんですか、これ！？

直接言ってやりなさいって無責任なっ！

「あたしだって可愛いお前をあんな馬鹿に会わせたくないんだよ。でもお前を一目見てきにいつちまったもんだからねえ・・・」

あたしや、どうしようもできないね。

と、半ば、いやほ諦めの状態でお祖母様はつぶやいた。

うちのお祖母様にそこまで言わせる見合い相手ってどんな人なわけ

！？

怪訝な顔でお祖母様を見つめると、お祖母様はため息をついて私を見た。

「一応言っとくが、うちの会社を担ってるやつだよ。頭は良いが、なにぶんよ過ぎて悪事ばっか働くもんさ。まったく」

あいつはどうしようもないね、なんてお祖母様がいうもんだから、私は不安で不安で仕方ない。

よし。

お断りしよう。

そう心に決めた肌寒い春でした。

「あ、ちなみに明日が見合いだからね」

何食わぬ顔をしてお祖母様は私にそう言った。突然過ぎやしませんか、なんて言葉をごくりと飲み込んでため息を吐く。

断ると決めたのは良いとして、根本的なところを見落とすところだった。第一相手の名前も素性も（お祖母様の会社の重役ってことはわかった）なーんにも私は知らない。

「ちなみになんて方なんです？おいつつなんですか？」

お祖母様に問えば、お祖母様は肩をすくめてそれ以上語らない。なんですかそりゃ。

はあああ、と深いため息をついて私は冷たくなった番茶を啜った。

苦しいくらいに着付けられた慣れない着物をきながら、私はお祖母様と、会社の社長様とともにまだ見ぬ見合い相手を待っていた。

「遅い・・・」

ぼつりとお祖母様が呟いた。

私はと言うと、できればこないで欲しいと願うばかり。重役ってい

うくらいだから偉い人なのだろうけど、私では到底釣り合わない。自分で言うのは悲しいけど、ちんちくりんだし（150センチに僅かに及ばないこの身長が恨めしい）、お世辞にも綺麗な顔とは言えないだろう。スタイルだって貧乳のストーンとした体型だし。

なんだかブルーになりそうだわ。

どうやって断ろうかなあ、なんて頭の中で考え始めた瞬間、勢いよくスパーンと襖が開いた。

.....え？

「遅いじゃないか、馬鹿者」

社長様がイライラした様子で襖を開けた男を咎める。お祖母様もため息をつきながら遅いと一言文句をたれた。

「悪かったな。仕事が押したもんでね。」

「..やあ、お嬢ちゃん。初めまして？」

掠れたハスキーボイスが鼓膜を揺らした。私はこれでもかかってくらいに目を見開き、相手を見つめる。

まじですか？

そう聞くようにお祖母様を見ると、お祖母様は明後日の方向を遠い眼差しで見つめていた。

私の目の前には、金髪の艶やかな短い髪、耳にはオニキスのピアス、小さい顔にはサングラスがつけてあり、怖い顔をさらに怖く見せている。スーツもワイシャツもブラックで統一され、ネクタイはない。腕時計はきつと高価なものでしょう。

何より思っています。

この人、お幾つですか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7620z/>

Parasitic on Love.

2011年12月25日01時45分発行